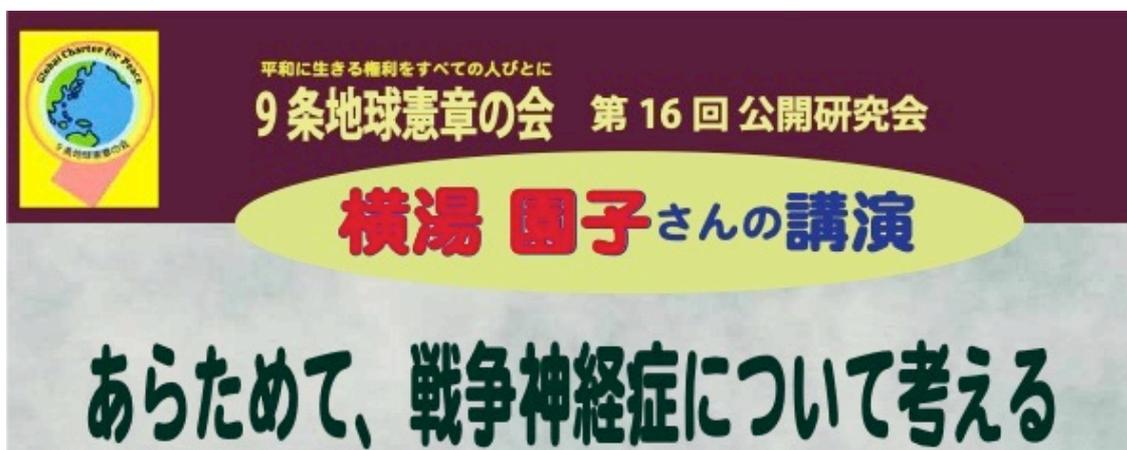


2019年11月14日

第 回研究会 横湯園子さん講演

「あらためて戦争神経症について考える」



地球平和憲章（案）では「戦争は人を狂わせます。

人間性を奪うものです。」と訴えています。戦争に投げられた兵士たちの心がいかに無惨な壊れ方をするのか、いかにその回復が困難であるか、臨床心理学の立場から膨大な実例を踏まえ、戦争の非人間性を厳しく告発しました。

【参考文献】

ジュディス・ハーマン『心的外傷と回復』（みすず書房）

加藤清『この世とあの世の風通し 精神科医 加藤清は語る』（春秋社）

エイブラム・カーデイナー『戦争ストレスと神経症』（みすず書房）

ハリス『海を渡るジュリア』（岩波書店）

【ビデオ】「隠された日本兵のトラウマ～陸軍病院 8002 人の病症日誌～」

横湯園子 専門は教育臨床心理学（clinical educational psychology）

臨床心理士（clinical psychotherapist）

1939年生まれ 日本社会事業大学 社会福祉学部卒

国立国府台病院児童精神科病棟児対象の治療的教育の場の教師を15年間勤務する。

1965年 国立病院内の児童精神科病棟に、日本で初めて、

学校恐怖症児童＝現在の不登校児・生徒の教育を保障する院内学級が設置。

1970年から勤務し、最後の年、東京大学教育学部に都道府県派遣研究生として研究をまとめる。

『登校拒否 専門機関での援助と指導の記録』（あゆみ出版）に続き、

『登校拒否 新なる旅立ち』（新日本出版社）としてまとめる。

千葉県市川市市教育センターの指導主事、

国立精神神経センター・児童思春期部客員研究員を経て、大学に身を移す。

女子美術大学助教授、北海道大学教授、中央大学教授を務め、

2010年3月定年退職。

北海道大学教育学部に新学問領域である教育臨床講座が設置。

教育臨床心理学の確立に努める。

『教育臨床心理学』（東京大学出版会）

『ひきこもりからの出発』（岩波書店）

『魂への旅路』（岩波書店）

中央大学においては教育臨床に関わる事柄をまとめ、専門家・研究者養成に努める。

退職後も、求めに応じて困難事例のカウンセリング、治療、研修に関わっている。社会的には

・子どもの権利条約 市民・NGO 報告書をつくる会共同代表

(Assoc. of Citizens & NGOs for Alternative Report UN. CRC Co-President)

・横湯園子教育臨床心理研究所

・「女の平和」発起人、世話人代表

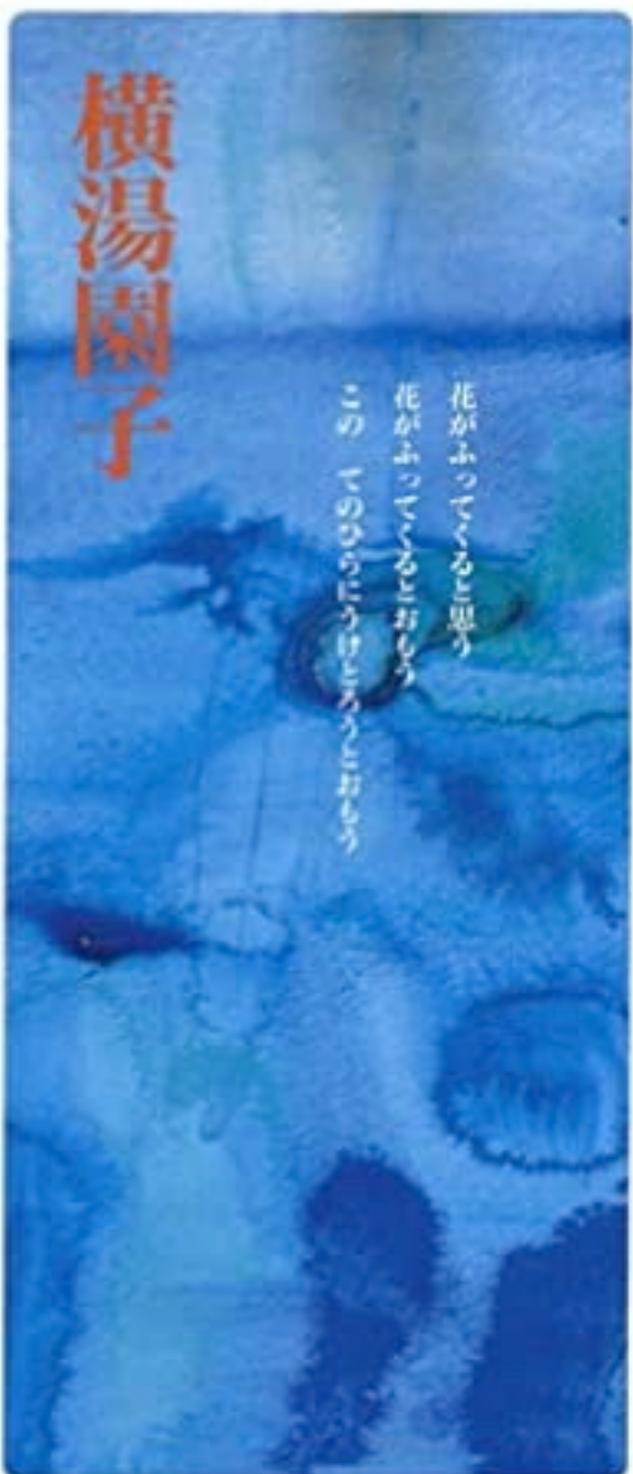




アーベル指輪の おまじない

登校拒否児とともに生きて

岩波書店



横湯園子

花がふつてくると思つた
花がふつてくるとおもつた
いのちをこらへておもしろい



登校拒否
——
新たなる旅立ち

横湯園子



ひきこもり
からの
出発

ある
カウンセリングの
記録

横湯園子

日本文学

横湯園子

文庫
1111

魂への旅路

戦災から震災へ



1111

教育臨床心理学

愛・いやし・人権 そして回復

横淵園子 一著

Yokoyama Sonoko



東京大学出版会